

N E C

Express5800/100 シリーズ
ESMPRO[®]/AutomaticRunningController
Ver. 3. 2

UL1046-901

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.2をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.2をお使いになる前に、必ずお読み下さい。

Windows[®] XP、Windows[®] 2000、Windows NT[®]、Microsoft[®] は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ESMPRO[®]は日本電気株式会社の登録商標です。

CLUSTERPRO[™]は日本電気株式会社の商標です。

Smart-UPS、PowerChute[®] *plus*は、American Power Conversion Corporation の登録商標です。

目次

第1章	製品内容.....	4
第2章	セットアップの準備.....	5
2.1	ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境.....	5
第3章	セットアップの方法.....	7
3.1	ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール.....	7
3.2	ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール.....	11
3.3	ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能のインストール.....	13
3.4	ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能のアンインストール.....	13
3.5	ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定.....	14
3.5.1	ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定.....	14
3.5.2	PowerChute <i>plus</i> 連携時の設定情報の削除.....	15
第4章	注意事項.....	16
4.1	セットアップ関連.....	16
4.2	運用関連.....	17
4.3	ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視関連.....	18
4.4	PowerChute <i>plus</i> 連携関連.....	19

第1章 製品内容

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.2のパッケージの内容は、次の通りです。
まず、添付品が全部そろっているかどうか、確認して下さい。

- ・ KeyFD 1枚
- ・ ソフトウェアのご使用条件 1部
- ・ お客様登録カード 1部
- ・ セットアップカード (本書)

第2章 セットアップの準備

ESMPRO/AutomaticRunningController をご使用になるためには、コンピュータの環境を準備していただく必要があります。本章の要件を満たした後にESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ¹を実行してください。セットアップの方法は、第3章で詳しく説明しています。

2.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境

ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするためには、次の環境が必要です。

ハードウェア

<サーバ>

- ・ メモリ : 2. 2MB以上
- ・ 固定ディスクの空き容量 : 5. 5MB以上

※ ESMPRO/UPSControllerと連携して自動運転を行う場合には、多機能UPS² が必要になります。多機能UPSとサーバの接続方法や運用方法は、多機能UPS添付の取扱説明書をご覧ください。

※ PowerChute *plus*と連携して自動運転を行う場合にはSmart-UPS相当無停電電源装置³が必要になります。Smart-UPS相当無停電電源装置とサーバの接続方法や運用方法は、Smart-UPS相当無停電電源装置添付の取扱説明書を参照してください。

<マネージャ>

- ・ メモリ : 1. 0MB以上
- ・ 固定ディスクの空き容量 : 1. 5MB以上

¹ セットアップ : [Express Server Startup]のCD-ROM 媒体にあるプログラムを、固定ディスクにコピーして実行できる形式にすること

² 多機能UPS (無停電電源装置) : [N8580-19, 20, 27, 28, 29, 27A, 28AC, 29AC N8542-07, 08, 07AC, 08AC, 12]

³ Smart-UPS 相当無停電電源装置 : [N8180-11, 12, 13, 33 N8142-11A, 15, 16, 17A, 22, 23, 24] (IEN コート製品) [N8580-11, 12, 13, 33 N8542-02, 03, 11, 15]

ソフトウェア

<サーバ>

- ・ OS : Microsoft Windows NT 4.0 Server/Workstation
Windows 2000 Advanced Server/Server/Professional
Windows XP Professional
- ・ 必須ソフトウェア
 - [ESMPRO/UPSController連携による自動運転を行う場合]
 - : ESMPRO/UPSController (Windows NT版)
 - [PowerChute *plus*連携による自動運転を行う場合]
 - : PowerChute *plus* (Ver5.1.1以降)
 - : UPSsleep オプション (PowerChute *plus* 日本語版の無料オプション)

<マネージャ>

- ・ OS : Microsoft Windows NT 4.0 Server/Workstation
Windows 95/98/Millennium Edition
Windows 2000 Advanced Server/Server/Professional
Windows XP Professional/Home Edition

- ※ ESMPRO/AutomaticRunningControllerはMicrosoft Windows NT 4.0 Server/Workstation、Windows 95/98/Millennium Edition、Windows 2000 Advanced Server/Server/ProfessionalおよびWindows XP Professional/Home Edition上で起動するアプリケーションソフトです。ご使用になる際にはそれらのOSがセットアップされていることが必須条件となります。
- ※ ESMPRO/AutomaticRunningControllerは、Smart-UPS相当無停電電源装置を制御する場合にはESMPRO/UPSManagerまたは、PowerChute *plus*と連携し、多機能UPSを制御する場合にはESMPRO/UPSControllerと連携します。サーバには、使用する無停電電源装置に応じて適切なソフトウェアをセットアップしてください。

第3章 セットアップの方法

3.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール

- (1) サーバへのセットアップの場合は、ラベルに『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100シリーズ用#1(1/3)』と書かれてあるCD-ROM媒体をCD-ROMドライブに挿入します。マネージャのセットアップの場合は、ラベルに『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100シリーズ用#2(2/3)』と書かれてあるCD-ROM媒体をCD-ROMドライブに挿入します。
- (2) Express Server Startupを起動します。
(起動手順については次のセットアップカードを参照して下さい)
 - ・Express5800シリーズ
 - Express Server Startup (Windows[®] 2000版)
- (3) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップには「一括インストール」と「個別インストール」の2通りの方法があります。

◆ 一括インストールの場合：

- ① 「Express Server Startup」から、【インストール】－【一括インストール】を選択すると次のダイアログボックスが表示されます。



図 1インストールするソフトウェアの選択画面

- ② 「製品名」一覧から、「ESMPRO/AutomaticRunningController」を選択します。
- ③ 選択した「製品名」のバージョン/ユーザセット数が「バージョン/ユーザセット数 (UL型番)」に表示されますので、「バージョン3.2 1セット(UL1046-901)」を選択して下さい。
- ④ 「インストールするソフトウェア」に「ESMPRO/AutomaticRunningControllerバージョン3.2 1セット(UL1046-901)」と表示されますので「OK」ボタンを押します。
- ⑤ 以降、インストール先ドライブ名、KeyFDをセットするドライブ名、氏名/会社名の入力を行います。
- ⑥ 「ソフトウェア名 ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.2 のKeyFDをドライブ X: にセットして下さい」と表示されます (XはKeyFDをセットしたドライブ名) のでKeyFDをドライブ X:にセットして「OK」ボタンを押します。
- ⑦ ファイルの転送が開始されます。
- ⑧ (4) へ進みます

◆ 個別インストールの場合：

- ① [Express Server Startup]から、【インストール】－【個別インストール】を選択します。
- ② KeyFD をセットするドライブ名の入力要求がありますのでKeyFD をセットするドライブ名を入力し、「OK」ボタンを押します。
- ③ 図1と同様の画面が表示されますので、【一括インストール】の場合の手順②、③と同様にして「製品名」と「バージョン/ユーザセット数 (UL 型番)」の選択を行い「OK」ボタンを押します。
- ④ 氏名/会社名、の入力を行います。

(3-1) サーバへの「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップの場合

- ⑤ ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップダイアログが表示されます。
- ⑥ 「続行」ボタンを押します。
- ⑦ 構成情報は、次のように選択します。
 [ESMPRO/UPSController と連携して多機能UPS で自動運転を行う場合]
 “UPS 使用での運用”を選択します。
 [PowerChute *plus* と連携してSmart-UPS 相当無停電電源装置で自動運転を行う場合]
 “装置なしでの運用”を選択します。
- ⑧ 「続行」ボタンを押します。
- ⑨ インストール先のフォルダを入力するダイアログボックスが表示されます。
- ⑩ ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするドライブ、フォルダを決定します。パスを入力し直すと、任意のドライブ、フォルダにセットアップすることができます。入力が完了したら「続行」ボタンを押します。
- ⑪ フォルダ確認ダイアログが表示されますので、インストール先のフォルダに誤りのないことを確認して「続行」ボタンを押します。入力をやり直す場合は「戻る」ボタンを押して⑩からやり直します。
- ⑫ ⑪で「続行」ボタンを押すとファイルの転送が始まります。
- ⑬ 「セットアップは完了しました」とメッセージが表示されるとセットアップは終了です。
- ⑭ (4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」セットアップの終了表示 (P. 10)に進みます。

注意

⑦において“装置なしでの運用”を選択した場合は、引き続きESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定作業を実施する必要があります。「ESMPRO/AutomaticRunningControllerの動作環境の設定」の作業を実施して下さい。

(3-2) マネージャへの「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップの場合

- ⑤ ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップダイアログが表示されます。
- ⑥ 「続行」ボタンを押します。
- ⑦ インストール先のフォルダを入力するダイアログボックスが表示されます。
- ⑧ ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするドライブ、フォルダを決定します。パスを入力し直すと、任意のドライブ、フォルダにセットアップすることができます。入力が完了したら「続行」ボタンを押します。
- ⑨ フォルダ確認ダイアログが表示されますので、インストール先のフォルダに誤りのないことを確認して「続行」ボタンを押します。入力をやり直す場合は「戻る」ボタンを押して⑧からやり直します。
- ⑩ ⑨で「続行」ボタンを押すとファイルの転送が始まります。
- ⑪ 「セットアップは完了しました」とメッセージが表示されるとセットアップは終了です。
- ⑫ (4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」セットアップの終了表示 (P. 10)に進みます。

(3-3) サーバへのバージョンアップセットアップの場合 (個別インストールのみで可能です)

- ⑤ ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップダイアログが表示されます。
- ⑥ 「続行」ボタンを押します。
- ⑦ サーバにセットアップされている以前のバージョンを表示したダイアログボックスが表示されます。ここでの手順はバージョンアップの方法によって次の2通りに分かります。

・マイナーバージョンアップの場合

「続行」ボタンを押すと、現在の設定データを引き継いだ上書きインストールが実行され、以降の手順は(3-1)⑬に続きます。

・メジャーバージョンアップの場合

旧バージョンのKeyFDが無効になってもよいかを確認するダイアログが表示されます。すでに、旧バージョンのKeyFDを返却している場合は、「はい」を押します。この場合、現在の設定データを引き継いだ上書きインストールが実行され、以降の手順は(3-1)⑬に続きます。

旧バージョンのKeyFDがある場合は、「いいえ」を押して⑧に進みます。

- ⑧ データの引き継ぎを選択するダイアログが表示されますので、以前にセットアップしていた情報を引き継ぐ必要が無い場合には、「いいえ」を押します。「はい」を押すとデータの退避が行われます。
- ⑨ 現在インストールされている製品のアンインストールを指示するダイアログが表示されます。ここで「OK」を押すとインストールは中断されます。
- ⑩ ⑨で指示されたアンインストールを実行してください。(アンインストールの方法はESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール(P. 11)を参照して下さい)
- ⑪ 再び(3) (P. 7)からのセットアップを実行します。
- ⑫ ⑧で「はい」を選択した場合は、(3-1)の作業の中で「設定情報の退避データがあります」というダイアログが表示されますので、「はい」を選んでください。以前にセットアップしていた情報を引き継いでセットアップが行われます。

- (4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」セットアップの終了表示
セットアップが終了すると次のダイアログボックスが表示されます。

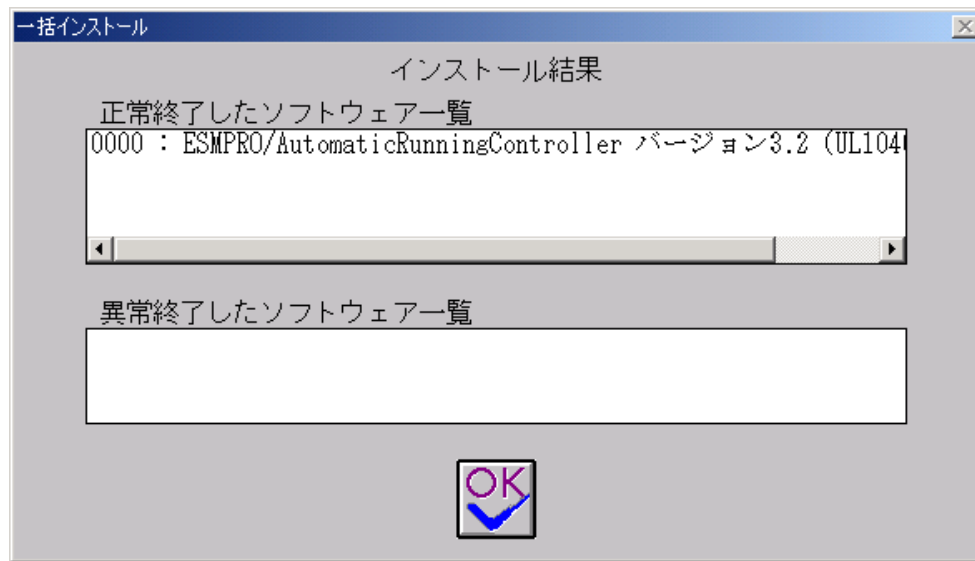


図 2インストール結果表示ダイアログ

注) 個別インストールを行った場合はウィンドウタイトルが「個別インストール」になります。

[Express Server Startup]を終了して、システムを再起動して下さい。

注意

セットアップの実行中に<終了>及び<キャンセル>ボタンを押すと、セットアップ中止の確認のメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで<終了>ボタンを押すと、セットアップは中止されます。その場合、途中まで転送されたファイルの削除は行われません。

3. 2 ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール

- (1) 対象サーバにESMPRO/AutomaticRunningControllerのオプション製品ESMPRO/AC Enterpriseがインストールされている場合は、ESMPRO/AC Enterpriseのアンインストールを実行します。（方法についてはESMPRO/AC Enterpriseのセットアップカードを参照して下さい）
- (2) PowerChute *plus* と連携して自動運転を行っている場合は、「PowerChute *plus*連携時の設定情報の削除」(p. 15)の作業を実施します。
- (3) 対象サーバに CLUSTERPRO がインストールされている場合は、【コントロールパネル】→【サービス】を起動してCLUSTERPROのサービスを停止します。（サービス名については、CLUSTERPROのマニュアルを参照して下さい）
- (4) サーバのアンインストールでは、ラベルに『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100 シリーズ用#1 (1/3)』と書かれているCD-ROM媒体をCD-ROMドライブに挿入します。マネージャのアンインストールの場合は、ラベルに『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100 シリーズ用#2 (2/3)』と書かれているCD-ROM媒体をCD-ROMドライブに挿入します。
- (5) Express Server Startupを起動します。
（起動手順については次のセットアップカードを参照して下さい）
 - ・Express5800シリーズ
 - Express Server Startup (Windows[®] 2000版)
- (6) [Express Server Startup]から【アンインストール】を選択すると次のダイアログボックスが表示されます。

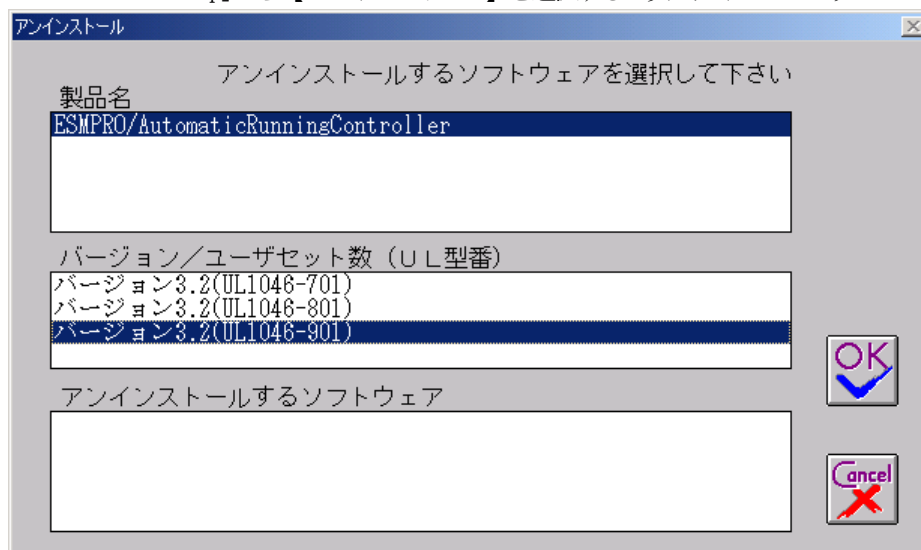


図 3アンインストールするソフトウェア選択画面

- ① 「製品名」一覧から、「ESMPRO/AutomaticRunningController」を選択します。
- ② 選択した「製品名」のバージョン/ユーザセット数が「バージョン/ユーザセット数 (UL型番)」に表示されますので、「バージョン3.2(UL1046-901)」を選択して下さい。
- ③ 「アンインストールするソフトウェア」に「ESMPRO/AutomaticRunningController バージョン 3.2 (UL1046-901)」と表示されます。
- (7) 「OK」ボタンを押し、KeyFDをセットしたドライブ名の入力を行います。
- (8) 「ソフトウェア名 ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.2のKeyFDをドライブ X: にセットして下さい」と表

示されます (X:はFDドライブ) ので、KeyFDをドライブ X:にセットして「OK」ボタンを押します。

- (9) アンインストールが開始されます。
- (10) PowerChute *plus*と連携して自動運転を行っていた場合は、「PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」(p. 15)の確認メッセージが表示されます。すでに実施済みであれば、「はい」を押してそのままアンインストールを続行してください。実施していない場合は、「いいえ」を押してアンインストールを終了し、「PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」(p. 15)を実施してください。
- (11) アンインストールが終了すると次のダイアログが表示されます。

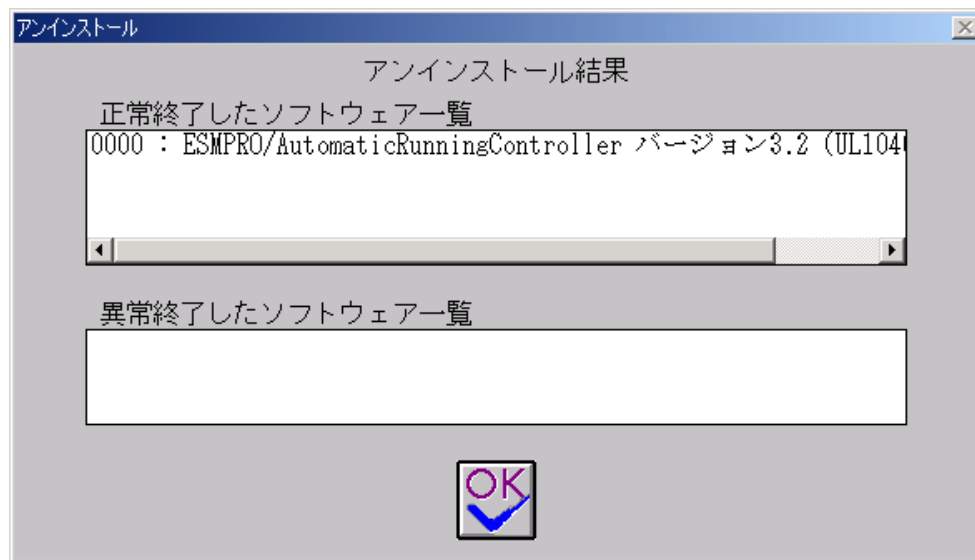


図4アンインストール結果表示ダイアログ

- (12) [Express Server Startup]を終了して下さい。

3.3 ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能のインストール

自動運転にて、電源の投入／切断監視要因として「Client 監視」を使用する場合は、サーバに本製品 (ESMPRO/AutomaticRunningController) をインストールし、「Client 監視」の設定を行った後、対象クライアントに以下の手順でセットアップしてください。但し、インストールするクライアントのOSがWindows NT、Windows 2000 あるいは Windows XP の場合は、administrators グループに属するユーザでなければインストールすることができません。

尚、「Client 監視」についての説明は、ヘルプを参照してください。

- (1) 監視対象となるクライアントにて、本製品をインストールしたサーバ（共有名「CMSETUP」（サーバにインストールを行うと自動的に作成されます））に接続し、「Cmsetup.exe」を実行してください。
- (2) 「インストール」を選択後、「続行」を選択してください。
- (3) Client 監視用のモジュールをインストールするフォルダを聞いてきますので、任意のフォルダを指定してください。
特に、フォルダを指定する必要が無い場合は、そのまま「続行」を選択してください。
- (4) インストールが終了しましたら、ログオンし直してください。

3.4 ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能のアンインストール

本製品をアンインストールする際には、製品のアンインストールの前に、Client 監視用のモジュールを次の手順によってアンインストールしてください。

- (1) 監視対象となっていたクライアントにて、製品をインストールしたサーバ（共有名「CMSETUP」）に接続し、「Cmsetup.exe」を実行してください。
- (2) 「アンインストール」を選択後、「続行」を押してください。

3.5 ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定

ESMPRO/AutomaticRunningController には、自動運転を行う動作環境を設定するための「ESMPRO_AC 環境ウィザード」機能があります。

「ESMPRO_AC 環境ウィザード」により、ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定を行います。

3.5.1 ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定

- (1) スタートメニューから「ESMPRO_AC 環境ウィザード」を起動します。
- (2) 「環境設定ウィザード」ボタン (図 5の①) を押すと、環境設定ウィザードが起動されます。

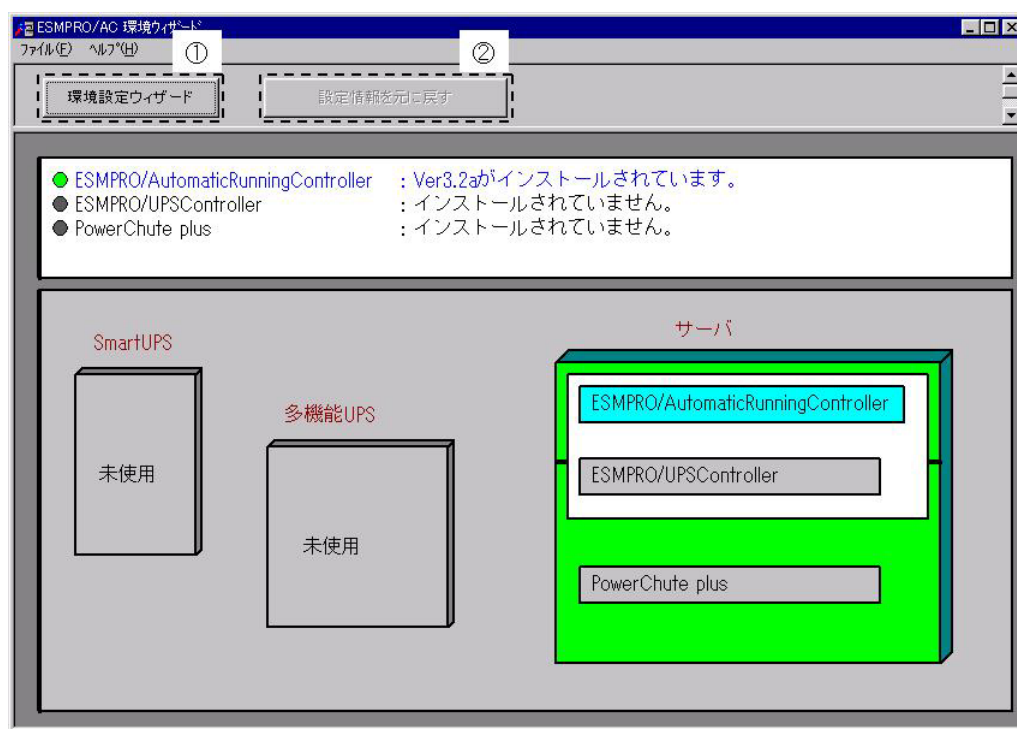


図 5環境設定ウィザード画面

Step1

ESMPRO/UPSController と連携して多機能UPS で自動運転を行う場合は、“ESMPRO/UPSController と連携して自動運転を行う”を選択します。

PowerChute plus と連携してSmart-UPS 相当無停電電源装置で自動運転を行う場合は、“PowerChute plus と連携して自動運転を行う”を選択します。

選択完了時は、「次へ」ボタンを押します。

Step2

Step1で“PowerChute *plus* と連携して自動運転を行う”を選択した場合、PowerChute *plus* のユーザ通知に関する情報を設定します。Step1で“ESMPRO/UPSCONTROLLER と連携して自動運転を行う”を選択した場合はStep3に進みます。

PowerChute *plus* でのイベント発生時(：イベントアクション)のユーザ通知機能を無効にする場合は、“PowerChute *plus* のユーザ通知をなしにする”を選択します。

PowerChute *plus* のユーザ通知機能を現状の設定のままで自動運転を行う場合は、“PowerChute *plus* のユーザ通知を残したまま、自動運転を行う”を選択します。

選択完了時は、「次へ」ボタンを選択します。

Step3

これまでの設定内容が表示されます。

「完了」ボタンを選択すると、ESMPRO /AutomaticRunningController の動作環境の設定作業は終了です。

PowerChute *plus* 連携の場合は、連携前の設定情報がESMPRO/AutomaticRunningController の内部情報として組み込まれ、新たにESMPRO/AutomaticRunningController 連携の為の設定がPowerChute *plus* に行われます。PowerChute *plus* でコマンドファイル実行機能を使用していた場合には、その設定情報も取り込まれます。

使用していたコマンドファイルの変更や削除が必要になった場合には、「PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」を行い、変更したいコマンドファイルの設定を確認・変更してから、改めて ESMPRO/AutomaticRunningController と PowerChute *plus* の連携設定を行ってください。

「完了」ボタンを押すと、ESMPRO/AutomaticRunningController サービスが再起動され、「ESMPRO_AC 環境設定ウィザード」の設定内容が変更されます。

3. 5. 2 PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除

- (1) スタートメニューから「ESMPRO_AC 環境ウィザード」を起動します。
- (2) 「設定情報を元に戻す」ボタン (図 5の②) を押すと、ESMPRO/AutomaticRunningController 連携の設定情報が削除され、PowerChute *plus* の設定が連携前の設定に戻ります。

注意

ESMPRO/AutomaticRunningController をアンインストールする際には必ず設定情報の削除を行ってください。設定の削除を行わずにアンインストールを実行すると ESMPRO/AutomaticRunningController をインストールする前の環境に戻すことができません。

第4章 注意事項

ESMPRO/AutomaticRunningController を使用する際は、次の点にご注意ください。

4.1 セットアップ関連

- (1) 多機能UPS を自動電源制御装置として使用する為には、以下の「ESMPRO/UPSController」が必要です。
で「ESMPRO/UPSController」のインストールを先に行ってください。

- ESMPRO/UPSController Ver2.0 以降推奨
(ESMPRO/UPSController Ver1.2 以降)
(ESMPRO/UPSController Ver1.1 + ESS RL97/09 以降の修正情報(RUR)の適用)
(ESMPRO/UPSController Ver1.0 + ESS RL97/09 以降の修正情報(RUR)の適用)

- (2) Smart-UPS 相当無停電電源装置を自動電源制御装置として使用する為には、「PowerChute *plus* (Ver5.1.1J 以降)」とUPSSleep が必要です。PowerChute *plus* とUPSSleep のインストールを先に行ってください。

- (3) PowerChute *plus* (Ver5.1.1J 以降) をインストールする際は、必ずUPSSleep のインストールも実行してください。

UPSSleep がインストールされていない場合、ESMPRO/AutomaticRunningController のPowerChute *plus* 連携による自動運転を正常に実行することができません。

- (4) UPSSleep をインストールすると、PowerChute *plus* から ESMPRO/AutomaticRunningController の設定情報がすべて削除されます。UPSSleep をインストールした場合は、必ず「ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定」を実施してください。

- (5) ESMPRO/ServerManager の統合ビューアから、ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスを起動する場合は、「ESMPRO/ServerManager」のインストールを先に行う必要があります。

4.2 運用関連

- (1) サーバとしてWindows 2000 をご使用になる場合、コントロールパネルの「電源オプション」機能の「休止状態のサポート」はOFF（初期状態）にしてください。

Windows 2000 の「休止状態」になった場合、ESMPRO/AutomaticRunningController によるサーバの自動運転は、制御不能になります。

- (2) 多機能UPSをご使用の場合は、自動運転実行中はAUTO/LOCALスイッチは必ずAUTOの状態でご使用ください。
- (3) 自動電源制御を行っている際は、サーバ本体のパワースイッチを使用して電源を切断しないでください。もしサーバ本体のパワースイッチにより電源切断を実行した場合、次の電源自動投入は行われません。手動により電源投入・切断を行う場合は、多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチと、ON/OFFスイッチを使用するか、GUIによるシャットダウンかシャットダウンアイコンを使用してください。（Smart-UPSをご使用の場合は、ON/テストボタン で電源投入を行ってください。なお、Smart-UPSのOFFボタン を押すと、シャットダウンが行われずそのまま電源が切断されますので、ご注意ください。）

本体サーバのOSストール等が発生し多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチやON/OFFスイッチに反応しない場合は、サーバのリセットスイッチにより復旧させるか、あるいは以下の手順で多機能UPSのUPS ENABLEスイッチを操作してください。

- ① 多機能UPSのUPS ENABLE を OFF にします。（ここで本体サーバの電源が切断されます。）
- ② 多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチをLOCAL にします。
- ③ 多機能UPSのUPS ENABLE を ON にします。
- ④ 多機能UPSのON/OFFスイッチを1秒程度押下します。（ここで本体サーバの電源が投入されます。）
- ⑤ 多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチを AUTO にします。

Smart-UPS相当無停電電源装置をご使用の際に本体サーバのOSストール等が発生した場合は、以下の手順で行ってください。

- ① Smart-UPSのOFFボタンを押します。（ここで、本体サーバの電源がOFFされます。）
- ② Smart-UPSのON/テストボタンを押します。（ここで、本体サーバの電源が投入されます。）

- (4) ESMPRO/AutomaticRunningControllerユーザインターフェイスで行う操作は、Administratorsグループに所属しているユーザでのみ行うことができます。
- (5) スケジュール作成でワイルドカードを使用した毎日設定を行う場合、あるいは、曜日指定で一週間の連続運転を設定する場合には、通常指定は運転休止にする事を推奨します。

「ESMPRO_AC ヘルプ」情報の「ご使用にあたってのご注意」もご覧ください。「ESMPRO_AC ヘルプ」はスタートメニューから起動することができます。

4.3 ESMPRO/AutomaticRunningController Client監視関連

- (1) クライアント監視対象への Client 監視機能のインストールおよびアンインストールは、同一ユーザで行ってください。

- (2) インストール中に下記のようなエラーが表示された場合は、下記セットアップ手順を行ってください。

エラー内容：

ファイルのコピー操作に失敗しました。— ディスクに書いたバイトが不正です。— コピー元ファイルまたはコピー先ファイルが破損している可能性があります。ChkDiskを使用してください。

コピー元 i:\ct13d32.dll

コピー先 c:\windows\system\ct13d32.dll

セットアップ手順：

- ① 一度セットアップを終了してください。
- ② cmsetup.exeと同じディレクトリ下にあるct13d32.dllを、エクスプローラ等を使用して下記ディレクトリにコピーしてください。

%Windowsのシステムディレクトリ%\system32 (Windows NTの場合)

%Windowsのシステムディレクトリ%\system (Windows 95/98の場合)

- ③ 再度、インストールを行ってください。

- (3) Windows 95/98 をご使用の環境で、ファミリログオン機能⁴を使用している場合には下記事項にご注意ください。

- ① ファミリログオン機能の設定によっては、ユーザが個別にスタートメニューを持っている場合があります。そのユーザでClient監視機能をインストールすると、そのユーザでのみClient監視機能が使用可能になります。
- ② 個別のスタートメニューを持っていないユーザでClient監視機能をインストールした場合は、個別のスタートメニューを持っていない全ユーザで、Client監視機能が使用できます。
- ③ 個別にスタートメニューを持っている複数のユーザでClient監視機能を使用する場合は、そのユーザ毎にインストールを行ってください。(2回目以降は上書きインストールになります。)
- ④ 個別にスタートメニューを持っていない全てのユーザと、個別にスタートメニューを持っている任意のユーザで、Client監視機能を使用する場合は、個別にスタートメニューを持っていない1ユーザと、個別にスタートメニューを持っている任意のユーザで、インストールを行ってください。(2回目以降は上書きインストールになります。)
- ⑤ 複数のユーザでインストールを行った後、アンインストールする場合は、インストールを行ったユーザでアンインストールを実行してください。その場合、他のインストールを行ったユーザのスタートアップに“ESMPRO_AC Client”ショートカットが残ってしまいます。設定の「タスクバーとスタートメニュー」の中の、「[スタート]メニューの設定」の削除にて、スタートアップに登録されている“ESMPRO_AC Client”のショートカットを個別に削除してください。
- ⑥ 個別にスタートメニューを持っていないユーザが複数存在するような環境で、ユーザ毎にインストールを行うなどの操作を行った場合、エクスプローラでエラーが発生することやインストールがストール状態になることがあります。そのような場合は、以下の手順を実行してください。

⁴ Windows 95/98 をご使用の場合に[コントロールパネル]-[ユーザー]を選択することによって、個人用に「デスクトップ」、「スタートメニュー」等の項目を設定することができる機能です。

- 1) Ctrl+Alt+Delete キーを押して「プログラムの強制終了」ダイアログを起動します。
- 2) 「ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能セットアップ」を選択し、「終了」を実行します。
- 3) 再び Ctrl+Alt+Delete キーを押して「プログラムの強制終了」ダイアログを起動します。
- 4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能セットアップ」が残っていないか確認してください。もし残っている場合には、2)と同様に無くなるまで「終了」を繰り返します。
- 5) システムを再起動してください。

4. 4 PowerChute *plus* 連携関連

PowerChute *plus* 連携による自動運転が正常に行われない場合は、PowerChute *plus* のインストールディレクトリ下にある pwrchute.err ファイルを確認して下さい。

不具合が発生した日のシステムの起動時刻において、以下のような内容が記録されている場合は障害回避手順を実施して下さい。

pwrchute.err ファイル

01/11/23 16:22:59 スクリプトファイル(C:\AUTORCY\pcp_cmd\ac_start.bat)が見つかりません。

障害回避手順

- ① PowerChute *plus*を起動して下さい。
- ② 「構成」→「イベントアクション」を選択します。
- ③ イベント一覧から「UPS通信確立」を選択し、「コマンド ファイル実行」を有効にします。
- ④ 「オプション」ボタンを押し、実行するコマンドファイルの設定を行います。
- ⑤ ESMPRO/ACが登録している情報を以下のように変更して下さい。

<変更前>

%ESMPRO/AC のインストールフォルダ%\pcp_cmd\ac_start.bat

<変更後>

%PowerChute *plus*のインストールフォルダ%\ac_start.bat

設定情報を変更後、PowerChute *plus*を終了します。

- ⑥ ④の登録内容が有効になるように、ac_start.batを④で記述している<変更前>の場所から、<変更後>の場所にファイルコピーして下さい。
- ⑦ システムの再起動を行って下さい。
システム再起動後に、本設定内容が有効になります。